

三峽移住者 社会心理調査報告

佐 斌

一 三峽ダム区域および移住の概況

世界の注目を集めている三峽ダムは、総投資額約二四〇〇—三〇〇〇億元、工期一七年という古今東西の水利建設史上空前の規模を有するもので、二つの世紀にまたがる「世界最大級のプロジェクト」と呼ばれている。そしてこの巨大プロジェクトにもなつて実施される三峽住民百万人の大移住も、「世界最大級の難事業」となっている。第七期全国人民代表大会第五回会議で採択された高さ一八五mの三峽ダム建築計画によれば、竣工後のダム湖面総面積は一〇八四km²、水没する土地の面積六三二km²で、湖北省および重慶市（従来は四川省の一部）の二一県・市に及び、水没ラ

インより低い土地に住んでいるために移転の必要な住民は八四・六二万人（うち、農業人口三六・一五万人、非農業人口四八・四七万人）である。人口の自然増などの要因を考慮すると、二〇〇八年に三峽ダムの全工事が完了し、ダム区域の水位が一五七mになる時まで、移転の必要な住民総数は最終的に一一三・三八万人に達する。これはまるまる一つの中小規模国の人口に匹敵する数である。

三峽地区は長期にわたつて経済的に立ち遅れており、交通の便が悪く、住民は相対的に貧困状態にある。三峽ダム建設によって直接影響を受ける地域は二一県（市・区）に及び、湖北省と重慶との境界にある大巴山南麓および湖北省西部山間地の長江本流・支流の両岸に位置する。この地域は山間地が主体で、しかも高い山と勾配の急な斜面が多

い。三峡ダム区域の面積は五・八万km²、人口一四五九・七四万人、一人当たり耕地面積はわずか六・二アールである。地理的条件と交通の便の悪さから、三峡ダム区域内二一県（市・区）の一人当たり社会総生産額は全国平均の四五・二%、一人当たり国民所得は五六・四%に過ぎず、全国に広がっている貧困地域の一つである。三峡ダム区域では教育も遅れており、民度が低く、科学技術が立ち遅れている。

三峡ダム区域の移住対象者は膨大な数に及ぶが、長江沿岸六〇〇kmあまりの細長い地域に分散している。ここは壮麗な山河と豊富な自然資源を擁するところで、気候条件もよい。こうした地域特性から、ダム区域内には移住を円滑に進めるための潜在的好条件がある一方、住民の郷里への愛着、住み慣れたところを離れたくないという心理をも生んでいる。

三峡の移住問題は、その波及範囲の広さ、影響の大きさから、三峡ダムプロジェクトの中でも最も重要な位置を占めており、現実のダム区域移住事業は大きな困難をはらんでいる。第一に、移住事業は一七年にわたる三峡ダム建設工事と歩調を同じくして行う必要がある、ダム建設と移住の「相互適応、相互調整、相互連繫」を完遂しなければならぬ。早期着手、早期投入が必要で、遅きに失してはいけぬが、時間的スパンが大きい。第二に、三峡ダム区域は中国でもかなりの貧困地域の一つであり、

移住を円滑に進めるための陸路交通業などの産業が発達していない。第三に、三峡移住事業は長期にわたり、この間に三回から四回の大規模な行政人員の交代があるので、移住対策事業の連続性に一定度の影響が及ぼされる。第四に、移住の対象となる二〇あまりの県・市は状況がそれぞれ異なり、移住対策事業について互いに経験を参考にすることはできるものの、一方では各地の住民が引越しや補償などについて互いに比べ合うので、知らず知らずのうちに移住対策事業の難しさを増すことになる。

三峡の住民移転は、経済問題、政治問題であるだけでなく、社会心理問題でもある。したがって、三峡ダム区域住民の移転作業をきちんと行い、三峡ダム建設の円滑な実施を保証するためには、三峡ダム工事の全期間およびその後、ダム区域移住対象者の社会心理についての研究を強化し、移住にともなうさまざまな問題を適時かつ妥当に解決するための指針を提示する必要がある。本論文が報告するのは三峡ダム区域移住対象者の社会心理調査研究に関する結果であり、研究の目標は、三峡ダム区域移住対象者の社会心理の現状を明らかにし、移住対象者の心理形成に影響を及ぼすさまざまな要因を分析するとともに、三峡ダム移住に係る対策および提言を出し、移住事業の円滑な実施に直接寄与し、ひいては三峡ダム区域の経済・社会発展、現代化を推進することである。

三峡ダム区域は湖北省、重慶市の二一県（市・区）にまたがり、移住対象者は八四・六二万人に及ぶ。われわれは三峡ダム区域の中から巴県、巫山県、万県市、開県、豊都県の五県・市の移住対象者を選び、調査を行った。実際に調査に応じた移住対象者の数は九六〇〇人以上に達した。そのうち、アンケート調査に応じた住民は五二〇四人で、男性二八二一人、女性二三八三人である。

二 三峡ダムが移住対象者に与えた心理的影響

三峡ダムがこの地域に暮らす人々に及ぼす影響は、何も一九九二年の第七期全国人民代表大会第五回会議で三峡ダム建設の決議がなされた時から始まったものではない。ここ数世紀以来、中国の何世代にもわたる先人たちは「魂は長江につながれ、夢に三峡をめぐって」いたし、「巫山の雲雨を断ち切り」、後世の人たちに幸福をもたらそうと考え、何度も試みた。三峡地域の人々も、幾世代にもわたって「高峡より平湖に出づ」ことを朝な夕なに夢みていた。

ところが、国の決議により正式に三峡ダムが建設されることになる、三峡地域の人々はいよいよ「三峡ダム移住対象者」として、先祖代々暮らしてきたところを離れなければならない、この時になって三峡の人々の中にはあ

れこれの心理がより現実的かつ強烈なものとなって生まれてきた。三峡ダム区域移住対象者の心理の特徴は、心理状態とその変化の二つの面に現れている。

(一) 移住対象者の三峡ダム建設に対する心理状態

調査の結果から、三峡ダム区域移住対象者はダムに対して複雑な心理を抱えていることが明らかになった。樂觀的な者、期待する者もいれば、失望する者もいる。代表的な心理を以下に掲げる。

(1) 樂觀

こうした心情を抱く者が大多数を占めている。その心理は次のようにまとめられる。

・一部の者は、三峡ダムは長い間造るのか造らないのかはつきりせず、宙に浮いたままだったのが、建設が決まって、「これでようやくほっとした」と考えている。

・ダム建設のための移住対象者として、三峡ダム建設に貢献できることを誇りに思う。

・三峡ダム建設によって、長い間貧しいままだったこの地域が、徹底的に、もしくはかなりの程度変わるはずだ。

・ダムが完成したら交通の便がよくなり、世界が広がる。

・住宅などもかなり改善されるだろう。

(2) 懸念

不安を抱く住民も少なくない。

・移住によって自分の生活レベルが現在より落ちるのではないかと心配だ。

・新しい生活や労働環境に適応できないのではと不安である。

・自分の犠牲が大き過ぎるのではないか（得るものより失うものが多いのでは）。

・補償費をもらえないのではないか、もしくは補償費が幹部より少ないのではないか。

・ダム完成後、大きな地滑りや地震が起きるのではないか。

(3) 困惑

調査結果が示すところでは、約四分の一の住民が、三峡ダムが建設されることを知った後、どうしたらいいかわからないと感じている。困惑の原因は、ダムが完成したらどうなるのか、移転がどのように行われるのかはつきりしないことにある。具体的な移住政策について知らないため、気持ちが落ち着かない。

(4) どっちでもよい

このタイプの住民の心理は、三峡ダムの建設いかにかわからず、どのみち働いて暮らしていかなければならない、というものである。

・どのみち社会主義なのだから、移住対象者を冷たくあしらうことはないだろうが、今のところわが国の経済はまだ発達していないから、補償費もそれほど多くはないだ

ろう。

・三峡ダム建設はあまりに長いこと論議されてきたから、もうどっちでもよいと感じるようになった。

・自分は完成したダムを見ることはできないし、ダムの恩恵にあずかることもないだろう。

(5) 懐疑

国が正式に三峡ダム建設を決定したといっても、三峡ダムがほんとうに建設されるのか疑問に思う者も一部にはいる。主として重慶市の移住対象者で、豊都県に住む年輩の住民たちの考えが代表的なものである。

・国の政策がぐらつくのが心配だ。

・今、国には三峡ダム建設のための金が十分にはない。

・金があったとしても、実際の建設には使われないのではないか（役人に着服されるのが心配）。

・工期が長過ぎるから、工事が始まったかと思うと中断され、再開、中断が繰り返されるのではないか。

・戦争が起きたら、三峡ダムの建設はできなくなる。

全体的には、楽観派、ダム建設を喜ぶ者が主流を占め、懸念、困惑を示すものがこれに次ぎ、懐疑派は少ない。

(二) 三峡ダム区域移住対象者の心理状態の変遷

調査結果から、三峡ダム区域移住対象者の心理は、三峡ダム建設工事および住民自身と関連のある移住対策事業の

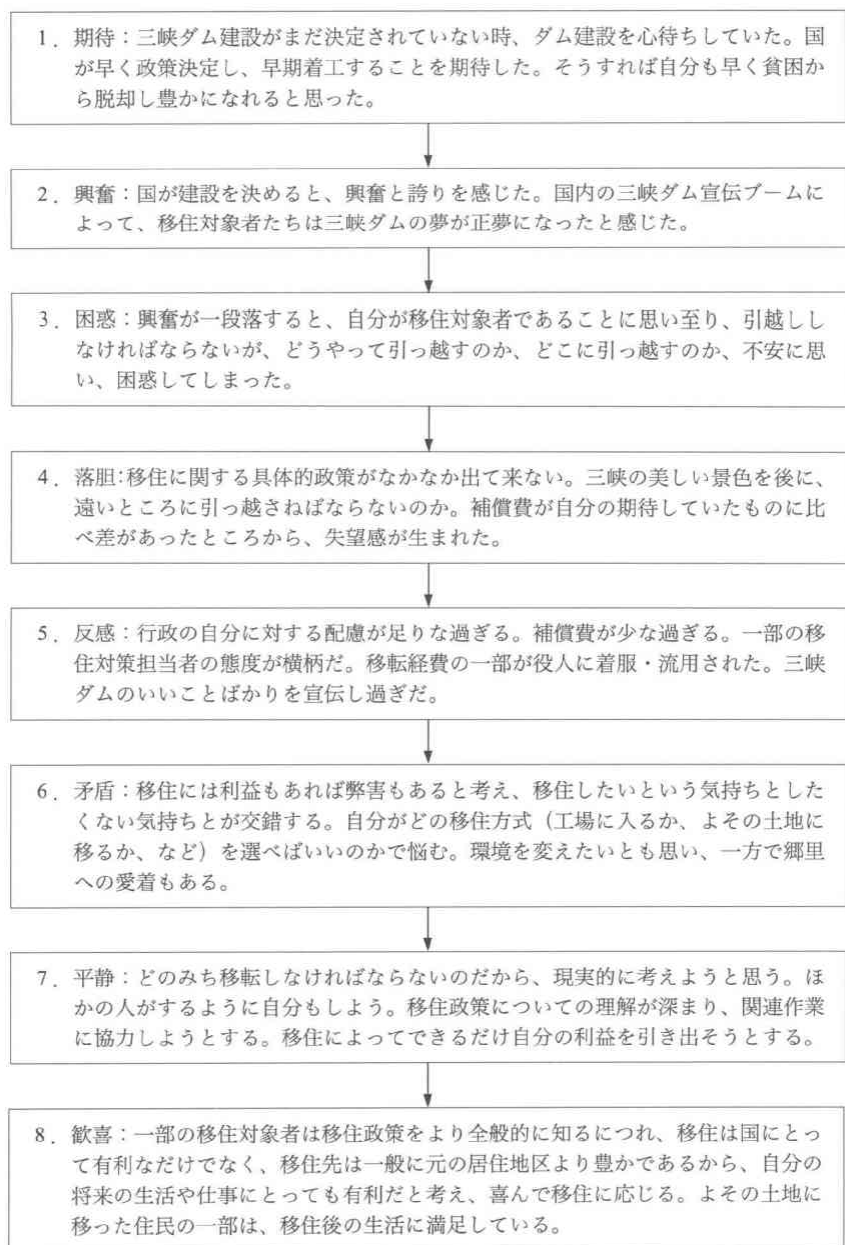


図1 三峡移住対象者の心理変遷

進展にもなつて変化しているのが分かる。大多數の住民の心理状態は、「期待—興奮—困惑—落胆—反感—矛盾—平静—歓喜」という法則に沿つて変遷している。この法則の具体的記述は図1を参照されたい。すべての移住対象者の心理がこのような変化をするわけではないが、ダム区域の移住対策担当者や大多數の住民自身がこうした変化のプロセスを認めている。

三 移転に対する住民の態度

アンケート調査と面談の結果をみると、全体的にいつて、三峡ダム区域の移住対象者の態度はかなり良好で、積極的なものが主流を占めている。

移住に対する認識という面では、相当部分の住民は、自宅の引越しという問題についてははっきりした理解をしていないが、三峡ダム、ダム区域建設の意義についての認識は、かなり正確でしつかりしている。感情面では、住民の気持ちは全体として樂觀的で向上心を示している。とはいえ、現実の移転問題に直面すると、心理的に適応できない住民も一部にいるし、相当数の住民が不快感を抱いている。意向という面では、三峡ダム区域移住対象者の特徴は、行政の言うことを聞き、政策に従い、従順に移転に応じるといふものである。

三峡ダム区域移住対象者の中では、男性の方が女性より独立自主意識が強い。若い住民の方が移住後の生活に対して自信を抱いている。住民の学歴が高いほど、三峡ダムおよび移住に対する態度がより積極的である。所得の低い住民は、三峡ダム建設に貢献しようという意識が低いだけでなく、移住後の生活についても自信が欠けている。

三峡ダム区域の移住対象者が喜んで移住に応じようとする場合、その主な理由は、三峡ダム建設のために役立ちたいという義務感から生まれている。移住を望まぬ理由の最も大きなものは、伝統的な安定した生活スタイルに対する強い愛着および移住後の生活について十分な保障がないことに対する憂慮である。住民の絶対多数は三峡ダムが自分にとって有利だと認め、半数は移住先についてあまり気にしておらず、三割の住民は元の居住地から近いところを望み、二割はよその土地への移転を希望している。

技術、就業、住宅は移住対象者が求める三大要素である。行政側から一時金として補償費が支給されることを希望する住民はさして多くない。

四 移住対象者の考え方と道德レベル

政治意識の高さ、思想、道德心の強さなどは、三峡ダム区域移住対象者の現実的社會心理をみる上で重要な分野で

ある。一方で、ダム区域における移住事業の円滑な実施に対する住民の政治意識の影響は無視できないし、他方では、三峡ダムおよびダム区域で繰り広げられたさまざまな対策事業によって、住民の政治意識や品性に一定の変化が生じている。調査によって以下のような結果が得られた。

(1) 三峡ダム区域移住対象者の政治意識や道徳心は全体として良好であり、主流は進歩的で、しかもよい方向へと推移している。政治意識の面では、祖国と人民を愛しているし、道徳的にも中国の伝統的なすぐれた美徳を受け継ぎ、さらに現代的な新しい考え方、新しい思潮を絶えず吸収している。文化的には、知識の進歩と発展を追求し、現代的なものに歩み寄ろうとしている。道徳面では、大多数の住民が無私の精神を示しているし、行動の上でも正義、道理を尊ぶことを主張している。

(2) 住民の政治意識には職業と地域による差異が存在する。個人経営者の政治意識は一層の向上が待たれるが、労働者と農民のそれは信頼するに足るものである。幹部層は基本的にきちんと職責を果たしており、信任できる。地域別にみると、巫山県の移住対象者の政治的自覚、政治意識は相対的に低く、開県が最も高い。巴東県の住民は「指導的立場にある行政幹部の腐敗現象が深刻」という項目に対してイエスと答えた比率が最も高い。

(3) 住民の人間観には学歴と所得による差異があり、移

住に対する態度に一定の影響を及ぼしている。人間は自分勝手なものだと考えるのは、移住を望まない住民の普遍的な心理である。学歴の高さや所得の高低は住民の進取の精神にさまざまな影響をもたらしている。「足るを知る者は常に幸福である」という考え方は、高学歴、高所得の住民にとっては、競争を避けるための口実であるが、中等ランクの者にとっては、競争への参加を鼓舞するものである。低所得者は人間を絶対的に性善であるとは考えないし、また強い進取の精神も欠けており、高、中二つのランクの中間に位置する。

(4) 住民の道徳レベルは全体として高く、道徳心がしっかりとっている。ダム区域の住民はわが国の伝統的美徳を基本的に継承、発揚しており、社会的に認知された道徳基準を認めている。人と人との関係における道徳観念や行為においても、社会発展の潮流に順応することができ、適宜調整して、態度や行為をより客観的にし、現実生活により適応できるようにしている。

(5) 住民は法律に対して基本的には信頼しているが、法制意識は全般的にかなり弱い。移住対策担当者を含む国家机关の職員および住民自身、十分自覚して法律を運用することや自分の利益を守ることがまだできない。調査の結果、三峡ダム区域移住対象者の中では、国家机关の職員はその他の職業の住民に比べて人情をより信じているこ

とが分かった。年齢が高いほど、法律の公正や公平についても懷疑的で、若者は相対的に強い法律意識を有している。

五 移住対象者が求めるものと価値観

三峡ダム区域移住対象者が求めるもの、価値観の傾向と特徴、社会人口学によって区分される各住民層の求めるものと価値観のそれぞれの特徴と差異、ならびに住民の求めるもの、価値観と移住に対する志向の内在的関係などについて以下のような結論を得た。

(1) 三峡ダム区域移住対象者の求めるものを六つに区分すると、これに対する住民の評価はかなりの程度一致し、しかも一定のモデルを示している。住民の求める高いものから順に並べると、発展、安全、貢献、生活、尊重、交流となる。表1は住民が基本的に求めるものについての調査結果である。表中の排列はサンプルの1から18ランクとなっており、平均値が大きいほど、その項目の重要性の度合いが高いことを示している。この表から、移住対象者は全般的に「社会の安定、治安のよさ」「より多くの知識を学びたい」「身体が丈夫で、ちゃんと働ける」という三項目が重要な意義を有すると考えており、これらが彼らにとって最も得たいものである。

(2) 移住対象者の価値観には以下のような特徴がある。

表1 三峡ダム区域移住対象者が求めるもの

順位	区分	内 容	平均値
1	安全	社会の安定、治安のよさ	3.82
2	発展	より多くの知識を学びたい	3.73
3	発展	身体が丈夫で、ちゃんと働ける	3.71
4	安全	不測の傷害に遭わず、病気にかからない	3.66
5	生活	衣食が満たされる	3.63
6	発展	学歴の向上	3.61
7	貢献	他人のためによいことをしたい	3.59
8	貢献	祖国の進歩のために役立ちたい	3.58
9	貢献	自分の能力を発揮したい	3.57
10	尊重	他人から尊重、理解されたい	3.48
11	尊重	物事を他人よりきちんと行いたい	3.41
12	生活	良好な生活環境	3.32
13	安全	他人から見下されたくない	3.12
14	交流	自分を助け心配してくれる人がほしい	3.09
15	交流	周囲の人に好かれたい	3.06
16	生活	結婚し、次代を育てたい	2.37
17	尊重	指導者になって、他人を自分の指揮に従わせたい	2.36
18	交流	いい異性の友達がほしい、恋愛したい	1.97

①一定の社会性と時代性を有している。住民の多くは「国家・民族の隆盛、外敵の侵略を受けない」「全世界がより平和で、戦争や衝突が起きない」「自分で自分をだいにする」「世界全体がより美しくなる」という四項目の終極的価値観を最も重要な項目としている。また手段的価値観については、「強い業務、労働、生活能力を有する人」「遠大な理想を持つ人」などを最も重要なものとして第一位、第二位に置いている。

②いくつかの優良な価値観がしかるべき位置を占めていない。団結互助、集団主義などの優れた価値観が重要な位置に置かれていないのである。「礼儀正しく、謙虚」「誠実に人に接する」はやはり重要な位置を占めているが、「寛容・謙讓」「独立独歩」は重く見られていない。

六 移住対象者の近代性とその特徴

近代性は社会と人の生活の各分野に浸透し、政治、経済、科学技術、思想文化などの面における伝統的な社会・人と異なる各分野の特性の総和で、その主たる特徴は、社会発展の必要に適応し、生産力の発展を促すことができることである。人の近代性は、生活、行動、思维、感情の各様式と近代意識という五要素によってはかられる。アメリカの

社会学者アレックス・インカレスらの研究によって、移転は人の近代性と関連があり、人の近代性を向上させることが明らかになっている。

調査の結果、全体的にみて、三峡ダム区域移住対象者の大多数は、その近代性の度合いが伝統から近代への過渡期に属することが見てとれる。これは一つには、現在社会全体が伝統から近代への変遷の過程にあるため、ダム区域の住民も社会の大きな流れの影響を受けるのを免れないということがある。また一方では、三峡ダム建設、移住事業の実施および観光業の発展が、伝統から近代への住民の転化を直接促進した。三峡ダム区域移住対象者の近代的要素構造形態の面では、各要素のレベルはアンバランスで、現代意識という要素では、住民は全般的にかなり高い現代性を有している。生活様式、思维様式という二つの要素では、一定レベルの現代性を有しているが、行動様式と感情様式では、住民の現代性の度合いはかなり低い。

七 移住対象者の技能とその特徴

三峡ダム区域移住対象者の実情に即して、技能を一般技能と職業技能に区分する。一般技能とは幅広い学習や生活の実践の中で次第に形成されるもので、同時にまた多くの実践活動領域に幅広く運用される行動様式である。一般技

能はさらに基本生活技能、社会交流技能、自己評価技能、心理適応技能の四種類に分けられる。一般技能に対応するのが特殊技能であるが、これはある種の専門的訓練を経るという条件のもとで、大量の具体的実践によって形成され、特殊な活動領域の中でのみ作用する技能である。特殊技能のうち、ある種の職業の必要を満たすことができるさまざまな能力の総和が職業技能である。調査の結果、以下のことが明らかにになった。

(1) 三峡ダム区域移住対象者の全体的技能レベルは、過渡型が多い。いくつかの伝統的な技能およびこれに対応する行動様式は、ダム区域の新たな生活に適応する現代的な生活技能および行為によって取って代わられつつある。

(2) 住民の一般技能レベルは「一強三弱」の状況を呈している。すなわち住民のほとんどは良好な心理適応技能を備えているが、自己評価技能、社会交流技能、読み書き技能の面では、なおいつその向上が待たれる。心理適応技能面で住民が備えている長所は、移住事業の円滑な推進にとって有力な保障となる。

(3) 商品経済発展の影響を受け、三峡ダム区域では、人々は現代的商品生活と密接に関係する職業技能をより進んで受け入れ、その修得を目指しており、伝統的な職業技能は次第に遠ざけられつつある。

八 移住対象者の消極的心理と社会病理的心理

(一) 迷信

調査の結果、次のことが明らかになった。

(1) 三峡ダム区域移住対象者の迷信を信じる心理と行為は、包括的で定まりがなく、感性的なもので、宗教の範疇には属さない。迷信の観念と行為についてみると、心理的な慰めの範囲を超えるものではない。多くの住民は迷信を信じていないし、迷信によって行動することもない。ごく少数の者が迷信を信じ、かつ迷信によって行動する。住民の中には迷信は信じないが迷信に従って行動する者もいる。

(2) 迷信を信じる住民の中では、運命や神秘的な事物を信じる者が多い。

(3) 迷信観念は、「いいことをすればいい報いが、悪いことをすれば悪い報いがある」「氣功で病気を治す」の二つに色濃く現れ、迷信行為は「年越しや節季に祖先を祭る」「禁忌を犯さない」の二つにしばしば現れている。

(4) 全体的にみて、住民が迷信を信じる原因は、「利に走り害を避ける」「大勢に従う」「神秘的なパワーを畏れる」「道徳の完成を追求する」といった精神の帰するところであ

る。

(5) 迷信を信じやすい層は、女性、既婚者、青少年、低学歴者である。

(6) 「鬼城」の異名を持つ豊都の住民は鬼を信じていないのに、万県市の住民には迷信行為が多く見られる。

(7) 迷信は現在のところ三峡ダム区域移住事業や社会のムードに大きな混乱を引き起こしてはいないが、未然にこれを防ぐべきである。

(二) 比較心理

比較心理とは、社会生活の中で人々が他人のある種の条件を参考基準として、損をしたくない、遅れをとりたくないという心理を指す。本研究においては、住民がより多くの移転費やその他の面での利益を得ようとして、他人もしくは他の職場とあれこれ比較する心理現象を指す。比較心理が生じる主な原因は以下のとおりである。

(1) 三峡ダム区域で移転する住民、職場の数は膨大で、状況は千差万別であるため、多くの比較主体と参考基準が存在する。

(2) 社会政策環境が緩やかであるし、さまざまな面で住民の切実な利益を配慮し力を尽くしている。三峡ダム建設はわが国における社会主義市場経済発展の重要な段階で進められており、市場経済へと向かう中で、人々は必然的に

経済効果と経済的利益に注意を払う。こうした時代的背景と緩やかな政治環境が、三峡ダム区域の移住対象者が国の利益に従い、後世の人々に幸福をもたらすことを前提に、個人の物質的、経済的利益を考えることを許している。

(3) 三峡ダムは工期が長く、莫大な費用が投じられるため、一部の住民の間にはこの期に乗じて甘い汁にありつこうという心理が存在する。多くの職場や個人は三峡ダム移住経費を甘い汁とみなし、機会に乗じてこの汁を吸おうとする。少なからぬ住民が国の金を「もらわないのは損」と考えているかもしれない。こうして、職場、集団、個人の間の比べ合いが激化するのには勢いの赴くところである。三峡ダム区域移住対象者の比較心理はすでに一定の消極的結果を生じていることが調査によつて分かった。たとえば移転費をたくさんもらおうという心理が、早婚や若年出産、計画出産のノルマを超えた多産、住宅用地や耕地の占拠、基準を超えた建設や浪費を招いている可能性がある。住民間、住民と移住対策担当者との間の矛盾が激化し、移転の円滑な実施に影響を及ぼしている。

(三) 落胆感

落胆感とは、自分が重視、重用されていないと感じ、心理的にバランスを失うことから意気消沈が生じる心理状態を指す。ここでは、住民が移転先で冷遇されて不満を感じ

る落胆状態のことを指す。三峡地域移住対象者に落胆感が生まれる主な原因は以下のとおりである。

(1) 移転前は大騒ぎしていたのが、移転後はひっそりして、その落差が大き過ぎること。

(2) 移転前の期待が大き過ぎた。多くの住民は移転前には、国から数百億円の移転費が出るし、移転後には工場に入って労働者になれるとか、りっぱな住宅が建てられるとか、さまざまな条件が改善され、補償費もたくさんもらえると考えていた。絶対多数の農民はすぐに貧困から脱却して豊かになれると期待していた。多くの住民には苦勞して事業を始めようという覚悟が足りない。それはとりわけ若者に顕著である。

(3) 移住のための附帯作業が追いつかないため、一部の住民にとっては移住後の仕事、生活条件などが移転前より悪くなっている。たとえば交通の便が悪い、飲料水が手に入りにくい、学校に通ったり医者にかかったりするのが大変、など。住民の心理は一時的に現実を受け入れられず、失望を感じる。特に中高年の農民の中には、移住前は、自分の家にいいみかん畑や茶畑があったし、土も肥えていたのに、移住後の耕地は土がやせていて、食べていくのも難しい、みかん畑や茶畑はまだできない、というわけで、移住の前と後を比べるほどに損したという気がしてくる者もいる。

(四) 土地への愛着

三峡ダム区域住民移転は、「もとの土地から後方に移し、開発的な移住を行う」という方針を採っているが、一部の住民はやはりよその土地へ移るのを望まず、郷里にとどまりたいと思っている。三峡ダム区域は少数民族居住地域の一つであり、自分の民族文化の特色を保ちたいと思い、郷里を離れるのを望まないのは少数民族に普遍的に見られる心理である。郷里に愛着を持つのは人情の常であるが、住民がこうした心理に支配されて移住を望まない場合、消極的心理に変わる。

九 移住に対する住民心理の動揺

三峡ダム区域建設は、程度の差はあれ住民の地理的環境、経済状況、生活様式および人間関係などを変える。このため、住民の心理に変化が生じるのは必至であり、移住は必然的に住民の心理に動揺を引き起こす。

いわゆる心理の動揺とは、経験的に、移住のもたらす住民の生産、生活に対する破壊およびこれによって引き起こされる心理の変化と不適応と定義することができる。これは住民の地域社会のあらゆる面に及ぶ。水没の状況によって、三峡ダム区域の移住は次の三種類に分けられる。

(1) 「鍋ごと」移住型。川に面した区域で完全に水没するため、丸ごと移転が必要なもの。

(2) 「巻き戻し」移住型。居住地の一部が水没するため、住民の一部がもとの場所から高台もしくは後方に移転する必要があるもの。

(3) 「カラ」移住型。これには二種類ある。一つは、住宅は水没しないが耕地が水没する住民で、実際には引越せず耕地水没補償費を受けとるだけのもの。もう一つは、住宅は水没しないが工場が水没するために、工場とともに移転しなければならないもの。

以上三種類のタイプの中では、「鍋ごと」型の難度が最も大きい。居住地のタイプによって、三峡ダム区域移住は都市部住民移転と農村住民移転の二種類に分けられる。その中では農村住民移転の難度が大きい。したがって、「鍋ごと」型の農村住民移転が三峡ダム移住対策で最も難しいものであり、このタイプの移転住民が受ける心理的動揺が最も際立っている。

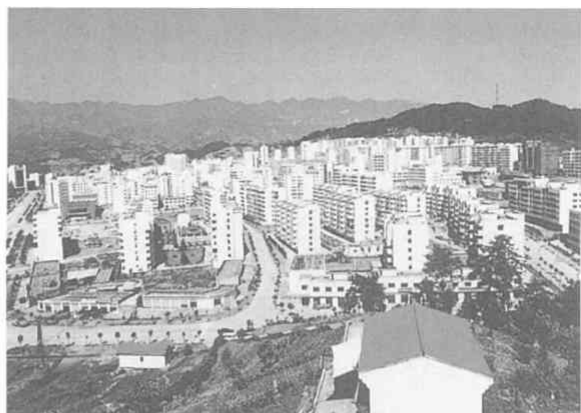
分析の重心を移住にともなう心理的動揺のマイナス面の影響に置いてみよう。マイナス作用は主として以下のいくつかの面に現れる。

(1) 従来の生産基地を失い、住民所得の連続性が試練にさらされる。長期的に安定した所得は、移住者にとって生活の基本的保証であり、あまたの要素の中でも決定的な役

割を果たす。田畑の水没によって、旧来の収入源が断ち切られるから、新たな収入源を切り開いてすみやかに旧来の収入源と切り替えることが、問題解決のカギとなる。三峡の移転住民にとって生産による収入が中断される時間が短ければ短いほど、移転にともなう動揺のマイナス作用は小さい。

(2) 移住先にもとからいた住民との潜在的な矛盾・衝突。三峡の移住者はもちろん移転先で相応の土地を手に入れるが、もともとした住民にとっては、これは一種の負担である。生産責任制を実施している農村では、土地の譲渡は、人々の心理に必然的に多かれ少なかれ一種の「奪われた」という感覚を生じさせる。このため、もよからの住民は一般的に移住者をあまり喜んでは受け入れない。こうした心理はある程度日常の生活行為に現れるから、新旧住民の間には衝突が起きやすい。

(3) 移住者の新しい環境への適応能力が試される。適応能力が劣るほど、移転にともなう動揺のマイナス作用が大きい。さまざまな原因から、三峡地域移住者の資質は総じて高くなく、適応能力は相対的に弱い。特に農村の移住者においてはその傾向が強い。もとの土地から後方に移転したら、山の上で荒れ地を開墾しなければならず、土壌がやせて、農作物の生産量が低いから、土壌改良が必要である。耕地が水没してしまうため、山でみかんの生産をしなければ



新しい姉妹県の様子（1998年10月）



三峡ダム地域に新しくできた移民村

写真出所：中国国務院三峡工程建設委員会弁公室「関于中国長江三峡工程的情况介绍」（国務院新聞弁公室新聞发布会資料）より

ばならない場合は、すみやかにみかんの生産管理技術を習得しなければならない。農業から工業へと仕事替えをした場合は、学ばねばならないものがさらに多くなる。

(4) 住民の方言、文化、風俗習慣、生活様式が移住によって試練にさらされる。もとの居住地域と移住先との文化的差異が大きい場合（たとえば上海市崇明区に移住した場合）、移住のもたらす心理的動揺はもっと大きくなる。異なるサ

ブカルチャーを土台にした新旧住民間の交流は円滑には進まない。つまり、新旧住民間の交流、理解は難しく、このことは新旧住民間の大融合の実現に不利である。

要するに、移住にともなう動揺のマイナス面の影響は多方面にわたる。これに対して効果的な制御をしないと、移住者の生活の貧困化や移住先の秩序の混乱を招くのは必至である。新旧住民が同化できないと、移住者は移住先で排斥されて遊民になつてしまう。したがって、移

住にともなう動揺のマイナス作用を効果的に制御しなければならぬ。三峡移住者のために、持続的で安定した収入源を開拓すること、住民をまとまって移住させるか、もしくはもとの居住地と質的に似通った地域に移住させること、および移住者の総合的資質を高めることが、移住にともなう心理的動揺のマイナス作用を少なくするための実行可能な方法である。

注

(1) 三峡ダム区域の市・地区・県は従来四川省に属していたが、重慶直轄市の設置にともない、一九九七年四月から重慶市に属することとなった。現地調査開始の際にはまだ四川省に属しており、重慶が直轄市となった後、その管轄下の行政区画と一部の地名について調整が行われた。

参考文献

長江三峡工程論証移民專家組編『長江三峡工程移民專題論証文集』一九八八年。

程地宇主編『三峡工程与移民概論』成都：成都科技大学出版社、一九九四年。

四川三峡学院『三峡工程与移民概論』一九九四年。

程虹、靳原『三峡工程大紀実』武漢：長江文芸出版社、一九九二年。

李伯宇主編『三峡工程移民条例導読』北京：中国三峡出版社、一九九四年。

国务院『長江三峡工程建设移民条例』北京：中国三峡出版社、一九九三年。

田方、陳一筠『国外人口遷移』北京：知識出版社、一九八六年。
長江水利委员会科学技術協会、湖北省水利学会水庫移民工程專業委员会編『水庫移民工程論文集』一九九三年。

〔米〕ギルバート・ロズマン著、国家社会科学基金「比較現代

化課題組」訳『中国的現代化』南京：江蘇人民出版社、一九八八年。

〔米〕アレックス・インクルス、ディヴッド・H・スミス著、顧昕訳『從伝統人到現代人——六個發展中国家中的個人變化』北京：中国人民大学出版社、一九九二年。

沙蓮香『中国民族性』北京：中国人民大学出版社、一九九〇年。
張琢『九死一生——中国現代の坎坷歷程和中長期予測』北京：中国社会科学出版社、一九九二年。

顏崇万主編『万縣市經濟發展研討會論文集』一九九四年。

湖北省巴東県志編纂委员会『巴東県志』武漢：湖北科学技术出版社、一九九三年。

四川省巫山県志編纂委员会『巫山県志』成都：四川人民出版社、一九九一年。

四川省豊都県地方志編纂委员会『豊都県志』成都：四川科学技术出版社、一九九一年。

豊都県移民局『移民工作簡報』一九九五年——一九九五年一月。

劉中和『開県移民工作情况匯報』プリント原稿、一九九五年九月。

簡報『三峡工程要上馬、庫区人民怎麼辦——巫山県移民工作思考』プリント原稿、一九九三年四月。

陳孝来『巫山県移民工作情况匯報』プリント原稿、一九九四年。
巴東県官渡口『官渡口鎮一九九四年移民工作總結』プリント原稿、一九九四年。

黄永貴『湖北地区部属水庫移民相關問題比較』プリント原稿、

一九八九年。

黃永貴「隔河岩水電站庫區移民若干政策施行狀況沒及損益分析」プリント原稿、一九九一年。

萬縣市科學技術顧問團、萬縣市科學技術委員會主宰「科技發展研究」、一九九二年—一九九五年。

四川三峽學院學報編輯部「三峽學刊」、一九九五年—一九九六年。

湖北省人民政府研究室、湖北省三峽辦公室等連合課題組『積極爭取三峽工程競標項目、促進湖北省經濟發展對策研究』政府調查研究、一九九四年（二八）。

華中師範大學學報（自然科學版）『長江中游沿岸地區生長力布局研究』一九九三年特集號。

李伯寧、殷之輅『三峽工程小叢書・庫區移民安置』北京：水利電力出版社、一九九二年。

李喬亞、張永才『三峽工程大潮汐』成都：成都科技大學出版社、一九九三年。

洪慶余『三峽工程小叢書・宏偉的工程』北京：水利電力出版社、一九九二年。

楊溢『三峽工程小叢書・論証始末』北京：水利電力出版社、一九九二年。

（邦訳 馬場節子）